知って得する

子育て小事典

第３号

光の泉幼稚園

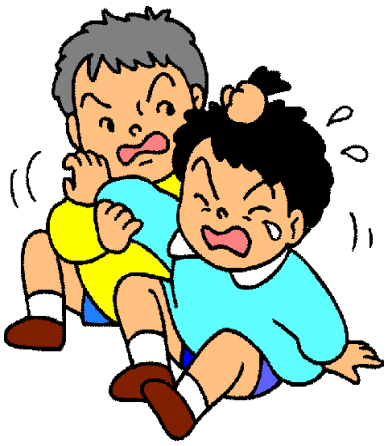
園長高島哲男

Q. 幼稚園でよく喧嘩をしているようです。お友達とは仲良くしてもらいたいけれどどうしたらいいでしょう。

けんか

「喧嘩をせずに、皆仲良く」ということを幼児や、小学校低学年の子供達に当たり前のように要求しています。喧嘩するより仲良くしている方が良いに決まっています。

しかし、私は子供のする事にはすべて意味があると思っています。



お母さん達から、喧嘩について色々な質問を受けますが、喧嘩をすることは大切な経験なので、大人が安易に裁いたり、何事も起きないように手を下したりするのではなく、大怪我につながらないように注意して、どうしたら自分達で解決できるか援助しながら、見守るようにしていますと応える事が良くあります。

ともすると、教師が中に入ってあれこれと事情を聞いて、どっちが良くてどっちが悪いか教え込んだり、裁きをつけたりすることを願っているお母さんが多いと思いますが、喧嘩という経験を通して喧嘩の収め方を覚えたり、子供社会、ひいては人間社会の中で上手くやっていく知恵を身につけるからです。年少や、年中は相手の気持ちや処理の仕方等、事細かに教師が教えなければならないこともありますが、年長になると子供達に任せても、自分達で解決する力は持っています。

動物の喧嘩は一体どうなっているでしょう。

ニワトリの群れを作りますと、最初の２～３日は群れ内で激しい喧嘩が起こりますが、その後は平和的な共存状態となります。一時的な喧嘩の中で、直線的な優劣の順位が決まるとその順位に従った秩序が出来るからです。

順位制（ランキングシステム）は、ニワトリに限らず、多くの動物達の群れに見られます。**このランキングシステムがなければ、種を守るための攻撃性が同じ種にも向けられ、喧嘩が絶えず、群れ自体が消滅してしまいます。**

動物の間では、喧嘩によって順位が決まるとそれ以上の攻撃はしません。相手を死に追いやることが目的ではなく、優劣が決まれば、それで目的は達成されるのです。

ゴリラの場合は胸をたたいて大きな音を出す事によってランキングが決まり、カバはあの大きな口をあけ比べる事でランキングを決め、喧嘩を儀式化して実際に攻撃し合うことはありません。

ライオンは一回のお産で 4～5頭の子供が生まれ、親の庇護のもとで同腹の子供グループを作って2年間を過ごします。父親のしっぽを追い掛け回

したり、子供同士でじゃれあって遊んだりしている姿をテレビなどで見たことがあると思います。

子供同士であそんでいるとき、うっかり、相手に爪を立てたり、本気で噛んでしまって猛反撃に会ってしまう映像を見たことがあると思います。ライオンの子供達のこのような遊びや喧嘩を通して、同時に生まれた仲間でも、力の優劣があることを知り、仲間内の喧嘩では歯や爪を直接使ってはいけないことなどを学んでいるのです。このことを身につけないと集団での狩が出来ないだけでなく、成人になったときペアを見つけることも出来ないのです。

霊長類のほとんどが一回のお産で一頭しか子供を産みませんが、この子供は母親を中心とした母系集団を作り、異年齢の子供がグループを作ることになります。長子から末子への縦社会のなかで、さらに、保護するものと保護されるもの等の複雑な関係が成長の過程で身についていきます。また、他の母系集団と交わることによって、より複雑な関係が生まれます。

子供同士の喧嘩はこのような関係を身につける上で、重要な働きをしています。**こういった社会性を身につける時期は、その動物の成長初期で、親や群れ仲間に保護されながら育つ時期、子供が子供集団で一緒に育つ時期であると言われています。**

また、お母さんの質問の中に、同じ年齢の子供の争いは喧嘩であると言えるけれど、大きい子が、小さい子に暴力をふるうのは、これは明らかないじめではありませんかというのがありますが、上記のように、縦の序列を作るまでは、起こりうることであって、一旦序列が出来ると保護する行動も出てきます。

最近の若者は、いじめで簡単に人を殺したり、「殺す経験をしてみたかった」といって人を殺したり、動物を切り刻んで殺したり、無残な事件が後を絶ちません。**これらの原因の一つは、幼児期、及び児童期に子供同士で群れをなして遊び、喧嘩をした経験が無いのも一因ではないかと思います。**

喧嘩によって経験した痛みは、相手の痛みも分かり、仲間内には加減をすることを覚えたり、言葉の発達とともに口喧嘩へ昇華させるのです。

また喧嘩は意思と意思のぶつかり合いで起こります。すなわち、自己主張が出来ている証です。若い男性が草食系男子と呼ばれ女性にプロポーズも出来ないというのは子供のころの喧嘩の経験が乏しいのも原因していると思います。

また、喧嘩が入り口となり、やがて相手の希望を叶えながら自分の願いも叶えられるような交渉へと発展していきます。したがって、幼稚園では喧嘩は必須科目だと思います。

年長さんのように口げんかをしているのを見るとお母さんも少しは安心できるかもしれませんが、これは、言葉の習得が完成した年長さんだから出来ることであって年少さんや年中さんに求めてもまだ早いと思います。まだ手や足が出ても仕方がない年齢です。そして、まだ『やられたらやり返せ』の方が理解しやすい年齢です。もう少し育つまで待ってあげましょう。それまでは大切な経験をして多くのことを学んでいるんだと思ってあげましょう。